

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

子ども学部子ども学科は、本学の「共生とコミュニケーション」という教育理念を礎に、子どもとそれを取り巻く諸環境との関係を総合的に捉える視点に立ち、教育・研究の実践を目的として設立された。

個人の精神・身体・行動の成長は、家族・社会・文化・自然など周囲の環境との相互作用によって成り立つと考えられる。そして、近年の少子高齢化、IT社会への移行といった急激な社会変化は、人々の生き方や価値観、行動様式に大きな影響を与えている。そのため、これからの人間研究では、精神や身体の発達の探究においても、人間と家族・社会との関係に着目するヒューマンエコロジーの視点が有効であると思われる。

人間は社会の中で孤立して生きることができず、共生を前提とした存在である。こうした人間の行動を、「共生」と「コミュニケーション」をキーワードとして、教育学・心理学・社会学などの学際的な視点から総合的に探究することは有効な手段であろう。

本学部は、「子どもが社会の中で協力し、コミュニケーションを図りながら共に生きる」という視点に立ち、子どもに関する総合的な教育・研究を行う組織として、特に幼児期に着目してきた。そして、学部設置当初から、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格について取得可能なカリキュラム編成を実施し、毎年多くの学生を幼児教育の現場に送り出している。変化の激しい社会の中で、子どもの気持ちに寄り添うことができる人材、子どもとその保護者の意識、行動の変容に適切に対応できる教員の養成が本学部の教員養成の目標である。

さらに、学齢期以上の学校教育の諸問題もまた、子どもの成長に密接に関連するものである。初等教育を担う教員の養成については、これまで国立大学法人を中心とする教育学部が、教科指導力を重視した教員養成で実績をあげているが、情報化社会の進展とともに、子どもの意識、行動は著しく変容しており、多様化し複雑化した子どもの諸問題に対処するには教科指導の力量に留まらず、多面的な資質、力量が必要とされる。現代の子どもを取り巻く環境を理解し、幼稚園、保育所との連携を深めつつ、子どもの発達や教育制度の質的変換期を支える人材を小学校の教員に加えることも喫緊の課題である。

そこで本学部では、今日求められる教員の養成に資するため、開設以来、玉川大学通信教育部との連携により在学中に小学校教諭免許状を取得する道を開いてきたが、さらなる幼児教育と学校教育との連携に精通する人材の育成を目指し、平成24年度から、本学部において小学校教諭一種免許状を取得できる課程を設置した。幼児教育・初等教育や子どもたちの発達支援の分野における高度な職業的専門性には、教育学、心理学、社会福祉等、子どもの発達に関わる基礎的な学識と、子どもの心に寄り添うことのできる豊かな感性、表現能力等の広範な資質・能力が含まれる。本学部の設置当初から脈々と受け継がれてきた「共生」という理念は、このような人材養成の方向性に合致するものであり、この理念に基づくカリキュラムを通して専門性と教科指導力を育み、それらを基盤として、特徴ある初等教育を担う人材の養成を進めている。さらに、従来から注力してきた幼児教育の担い手の養成においても、初等教育に関する知見を含む新たな専門的力量を付加することが可能となり、本学部に課せられた社会的使命をより一層果たすことが期待される。